

経営比較分析表（平成29年度決算）

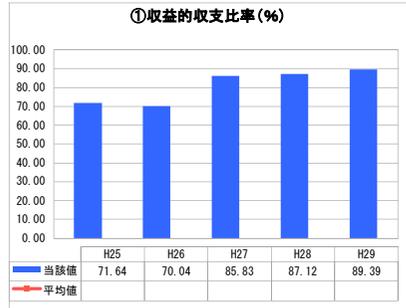
福島県 西郷村

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	農業集落排水	F2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	15.77	90.09	2,700

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
20,116	192.06	104.74
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
3,160	5.22	605.36

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成29年度全国平均

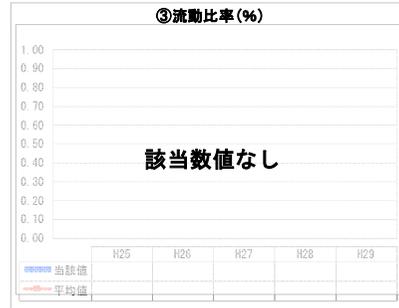
1. 経営の健全性・効率性



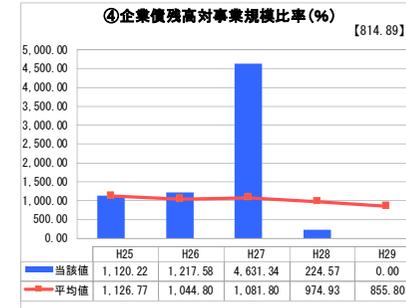
「単年度の収支」



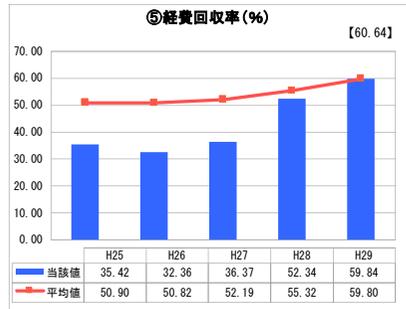
「累積欠損」



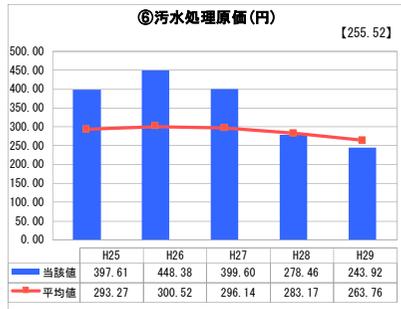
「支払能力」



「債務残高」



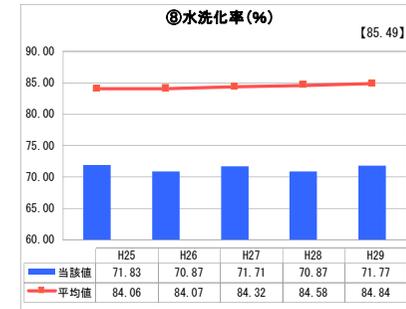
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」



「使用料対象の捕捉」

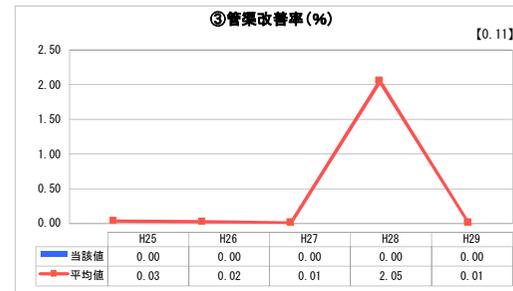
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①収益的収支比率はH27年度より80%を超えており、やや上昇傾向である。⑤経費回収率が60%を超え、⑥汚水処理原価も昨年度より抑えられており、経営状況が改善されているように見える。しかしながら⑦施設利用率及び⑧水洗化率は横這いであることから読み取れるとおり、補助金や賠償金といった収益によって数値が一時的に好転しているものである。継続的に経営改善化を図るためには、接続率の向上と維持管理費の抑制が喫緊の課題であり、接続促進活動等をさらに積極的に行っていく必要がある。

2. 老朽化の状況について

③管渠改善率に関しては、東日本大震災に伴う突発的なものを除き例年ほぼ0%である。H29年度に最適整備構想および経営戦略を策定したので、それらの計画的に添って施設の修繕・改修等を行い、費用の平準化を図ってきたい。

全体総括

数値の上では経営状況が改善されているように見えるが、実態としては依然として芳しくない状況といえる。現状はまだ管渠の更新へ着手していないが、今後老朽化対策を行っていくための財源を確保するためにも、経営改善化を図る必要がある。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。